

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立不動岡高等学校)

目指す学校像	明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成 科学教育と国際理解教育の拠点校として地域文化への貢献
--------	---

重点目標	1 教育活動及び学習活動の工夫・改善を図り、「これからの時代に求められる力」を養成する。 2 学力を向上させることにも高い志を養い、第一志望校への進学を実現する。 3 「質実剛健」「明朗質素」「文武両道」を日々実践する生徒を育成する。 4 さまざまな機会を通じて「不動岡高校ファン」を増やす。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ○本校生徒の実態と高大接続システム改革や次期学習指導要領をふまえた進路希望の実現につながる指導法等の研究及び実践に一つ取り組む必要がある。 ○SSH/SGHの成果を生かした教育活動の充実と通常の教育活動として定着させることが求められる。	1 高大接続システム改革等に対応する指導法・学習法と評価法の研究	・「主体的・対話的な学び」を促す指導改善のより一層の推進 ・「学力の3要素」をふまえた指導及び評価の工夫と観点別評価の研究 ・自主的・計画的な学習を促す指導の充実 ・次期学習指導要領や大学入学共通テスト、英語4技能検定に関する情報収集と生徒への周知	・ICTを活用するなど「主体的・対話的な学び」を促す授業の実施率 ・授業進度や指導及び評価の工夫の状況と生徒の授業理解度 ・SSH/SGH事業の実践例をふまえた観点別評価の研究状況 ・家庭学習時間及び早期学習生徒数、取組状況 ・職員への情報提供及び生徒への周知の状況	指導法・学習法の研究は順調だが、評価方法は今後さらに研究が必要 ・タブレット及びプロジェクターを用いた授業が増加。授業評価アンケートにおいて「主体性・協働性」の評価が4段階評価で3.21(H30 3.09)と上昇。生徒学習状況調査において、授業理解度70%以上の生徒も62.9%(H30 62.5%)と上昇した。 ・自己評価・相互評価を軸としたルーブリックによる評価を継続的に実施した。家庭学習時間は平日・休日ともに例年並み、早期学習に取り組み始業前の時間を有効活用する生徒は多い。 ・英語4技能資格試験入学入試利用をはじめ新入試の情報提供に関する説明会に積極的に参加し、学年等で情報共有するとともに学年集会やHRにおいて生徒に周知した。	B
	【課題】 1 「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を育てる「深い学び」の実現 ・授業の工夫・改善と評価方法の研究 ・主体的な学習の充実 2 SSHを活用した科学教育、外国語教育の充実およびSGH指定終了後を見据え国際理解教育のより一層の推進 3 「学びに向かう力」・リーダーとしての資質を育成する指導の充実 4 カリキュラムポリシーに沿って「これからの時代に求められる力」を養成する新教育課程の作成	2 SGH指定終了後を見据え一層効果的な国際理解教育の推進と外国語科等の教育活動の発展	・SGH指定終了後の発展的な教育活動の具体的な内容の検討 ・外国語科等の教育活動の指導法・成果等の授業等における活用	・SGH事業から学校全体への取組に移行した教育活動の実施状況 ・外国語科等の教育活動や諸事業に参加した生徒の意欲や資質の変化	SGH指定終了後に向け順調に取組を継続中 ・新分掌のFスタディ主導でFプランや各海外研修を実施 ・外国語科・英語科では、授業その他でプレゼンテーションの機会を増やし評価を行った。英語による科学プレゼンを充実させた。 ・海外研修参加希望者数210(H30 248)、「トビタテ!留学 JAPAN」に4名合格(応募9名)など留学先を自己開拓する生徒が増えた。	A
		3 課題研究や意識啓発事業を活用した「学びに向かう力」・リーダーとしての資質の育成	・SSH事業への取組の充実 ・Fプラン等の探究学習を始めとした様々な機会を通じて「思考力」「試行錯誤力」「発表力」の育成 ・ことばの力、メディアリテラシー等の育成	・SSH事業の中間評価 ・Fプラン等の実施状況と生徒の取組状況 ・アウトプットを重視した授業の実施状況や課題研究等の成果発表の状況 ・図書貸出数、図書館活用の授業の実施状況	課題研究への取組状況は良好、これからの時代に求められる力を養成する指導を継続 ・SSH中間評価リゾが本校の取組とその成果を十分に伝えることができた。 ・各年次で課題研究、発表に取り組み、1・2年次では代表各1グループが生徒研究発表会にて発表。3年次は提出論文から優秀なものを選出し、「生徒課題研究論文集」を作成した。 ・図書館の生徒貸出数3,021冊(H30 2,997)冊、授業利用68h(H30 13h)と増加した。	A
		4 次期学習指導要領をふまえた新教育課程の編成	・新教育課程検討委員会を設置し、新教育課程を編成	・新教育課程編成の進捗状況	全職員の協力のもと、新教育課程の大枠は固まる 新しい時代に即した学びや、学習指導要領の目指す「主体的で対話的で深い学び」とは何かを全職員で考え、新教育課程編成を進め、年度末に大枠は固まる予定。	A
2	【現状】 ○現役進学志向も強いが、地方国公立大学も視野に入れ国公立大学志望、第一志望大学への進学希望を貫こうとする生徒が増えてきた。 ○SSH/SGH等の探究活動の成果を活かし進路希望を実現する生徒も現れた。 ○本番で実力を発揮できない生徒やセンター試験が目標になっている生徒もいる。	1 早期に高い目標を設定させ、実現させるための計画的な進路指導の実践	・Fプラン等を活用した初期指導の徹底 ・授業を柱にした学習習慣の確立 ・系統的な進路行事の開催とデータや面談ノートを活用した面談の実施 ・社会で活躍する卒業生による意識啓発	・進路希望における目的意識の高さ ・進路希望実現を意識した授業への集中度、予習・授業・復習のサイクルの状況 ・面談等による生徒の進路意識の変容と支援 ・卒業生を活用した指導の状況と生徒の意識	3年間を見通した計画的な進路指導は順調 ・進路学習(1年10回、2年4回)進路講話(2年2回、3年7回)を実施した。 ・センター試験5教科総合型受検者数176名であった。 ・生徒学習状況調査において、「興味を持ったことを自分で調べる」「前学年より勉強している」が上昇した。 ・面談ノート・外部機関等を活用し面談(1・2年:二者1回、三者1回、3年:二者2回、三者1回)を実施した。 ・卒業生との懇話会(大学進学、仕事について)をはじめとし、各種講演会等を実施した。	A
		2 高い目標を実現させるための保護者との協力体制による生徒の学習意欲と粘り強く目標実現に向かう姿勢の育成	・学年・分掌・教科等の連携による自発的・自律的学習者の育成 ・生徒・保護者に対する情報提供、保護者面談・PTA活動等における進路情報の共有・意識啓発	・日常的な課題等を活用した計画的指導の実施状況 ・「進路だより」等の積極的な活用状況 ・模試等の結果による進学希望の変化 ・保護者の進路意識の状況	高い目標を実現のため、保護者への情報提供を適切に実施 ・教科間で連携し適切な課題量、提出時期の調整を行った。 ・「進路だより」37号まで発行。HPにも掲載した。 ・保護者を1・3年次で2回、2年次3回実施し、進路等の情報提供を行った(出席率約80%) ・保護者アンケートで進路に関し適切に情報を提供しているが55.7%(H30 53.8%)と上昇している。	B
3	【課題】 1 強い進路意欲を育てる計画的な進路指導、キャリア教育の充実 2 生徒の第一志望を実現させるための保護者や関係者等との連携 3 学力と進路希望に応じた指導の充実	3 生徒の進路希望に応じた指導の充実と学年・教科・分掌の連携による支援体制の強化	・難関大学を目指す指導の工夫 ・授業以外の学習の希望者に対する指導 ・進路等に不安を持つ生徒や保護者に対するサポートの実施	・入試結果や入試問題の分析、指導法の研究状況 ・授業以外の指導の実施状況と生徒の参加状況 ・学年、分掌、外部機関等と連携した相談活動の実施状況	データも活用した面談等や支援、SC活用によるサポートを実施 ・模試分析(1・2年4回、3年7回)を実施し、教科指導や面談で活用している。3年国公立出願検討会も実施した。 ・3年夏期補習44講座にのべ1713名参加。土曜、冬期休業中補習及びセンター演習会を実施。1・2年夏期補習はレベル別も導入した。 ・担任・学年・保健室の連携を密に、支援が必要な生徒、保護者をチームで見守り、必要に応じてスクールカウンセラー(SC)によるカウンセリングにつなげるなど相談活動を行うチーム支援体制が整った。	A
	【現状】 ○部活動・学校行事への参加意欲が高く、本校生としてふさわしい行動をわきま、自律の意識が醸成されつつある。 ○公共の場所での自律心をさらに磨くことも必要である。	1 本校生としての誇りを持ち校内外でふさわしい行動をとれる指導の実践	・風紀委員会・部活動等を活用した挨拶をはじめとする基本的生活習慣の確立 ・清掃への取組等による公共意識の啓発 ・学校施設・設備の利用意識の啓発	・不動岡生としての誇り、社会に貢献する意欲の向上 ・あいさつ運動等の取組と日常の状況 ・清掃への取組と日常的な施設の利用状況	保護者の理解を得て、校外外でふさわしい行動をとれる指導を着実に実施中 ・生徒学習状況調査で、社会に貢献しようとする意識が向上し79.6%(H30 78.0%)、不動岡生としての誇りを感じている生徒が77.1%(H30 78.5%)であった。 ・保護者アンケートにおいて、本校の生徒指導について92.8%が肯定的な回答を得た。 ・清掃分担の工夫と美化委員会の活用により、日常的な美化が維持できた。	A
	【課題】 1 本校生として品格ある態度やリーダーとしての養育の育成 2 学業と部活動・学校行事の高いレベルでの両立 3 登下校時の交通マナー、携帯電話やSNSの利用マナー等の向上	2 主体的・自律的な部活動・学校行事への取組を通じた集中力の育成と豊かな人間関係づくり	・計画的な指導に基づく部活動の充実 ・自分自身の目標達成を目指す部活動への取組 ・生徒会本部や生徒実行委員会を中心とした自主的な学校行事の運営	・部活動への生徒の加入状況、活動状況 ・目標達成に向けた取組、勉強との両立、負担などメリハリのある部活動の計画と実施 ・学校行事への取組状況及び行事による資質向上	メリハリのある部活動と活気ある学校行事を展開中 ・部活動加入数はのべ1142名(105%)で、陸上部、新聞部、放送部が全国大会、吹奏楽部、競技かるた部、音楽部が関東大会に出場するなど各々がメリハリのある活動を行い、活力をもたらしている。 ・生徒が主体的に取り組む学校行事として、生徒は「思考力」「責任感」「チャレンジ精神」などリーダーとしての資質が向上したと回答。	A
	3 交通マナーの徹底、インターネット等との自律的な関わり方指導の充実	・交通指導の実施、HRにおける継続的な指導 ・SNS等情報マナー・消費者教育に係る意識啓発事業の実施と日常的な注意喚起 ・風紀委員会を活用した自主規制の順守	・交通マナーの改善、近隣住民からの評価 ・意識啓発事業の実施状況と生徒の意識の変化、日常の状況 ・日常的な規定の順守状況	交通マナーは改善傾向、SNS利用については指導を継続 ・交通安全指導を年間6回実施。加須警察署と連携しての交通安全キャンペーン「無事カエル」の配布は好評であった。 ・スマートフォンの使用、SNS利用に関する注意喚起をし改善している。 ・生徒の自律の意識と教員の指導がかみ合い、規定順守状況は良好である。	B	
4	【現状】 ○HPや学校内外の説明会等を通じて積極的な情報提供・意識啓発がされている。 ○PTA活動や地域との交流事業を活用した貢献の充実が期待できる。	1 学校HPの更新を含めた積極的な情報発信による保護者との協力的な体制強化	・分掌・学年・部活動による積極的な情報発信 ・保護者とのネットワークづくり	・HPや学年通信等による情報発信の状況 ・HPの更新状況 ・学年別保護者会、PTA支部・理事会等を活用した保護者の意識啓発の状況	HP等を利用した情報発信をさらに充実させていく ・保護者の学校HP閲覧状況は上昇している。(保護者アンケート) ・学校行事等を中心にHPのトップページのニュースを73回更新 ・夏季支部PTA、学年保護者会等を通じて、高大接続システム改革の状況等必要な情報を提供した。 ・今年度は8支部体制、次年度は9支部体制となり支部再編が完了	B
	【課題】 1 学校HPの古い情報を更新するとともに教育活動の積極的かつ戦略的な広報活動による関係者の意識啓発 2 さまざまな機会をとらえた教職員や保護者、生徒等の交流を通して本校の教育活動についての周知や地域貢献	2 本校の特長をふまえた魅力発信と理解促進	・本校の特長への理解を促す学校案内作成 ・生徒募集対象地域、対象生徒を考慮した説明会等の実施内容・方法の見直し	・学校案内の中学生等にとってのわかりやすさ ・説明会等の工夫・改善の状況、参加者数	ニーズに合わせて説明会を実施。学科再編に向けて丁寧な説明を継続する ・熊谷・越谷・さいたままで校外説明会を実施。学校説明会全体会の説明担当の認識統一、本校教育活動の特色の説明を新たに追加。学科再編の周知のためのリーフレット作成、中学校訪問で説明。 ・校内の説明会の参加者数は1310組であった。	A
		3 本校の教育活動と人材を生かした地域連携・地域貢献	・地域における科学・国際理解教育、スポーツなどの拠点校としての事業の実施	・不動岡市民大学、小中学校との交流事業、出前授業、サイエンス教室等の実施状況 ・各種事業への小中学生や一般住民等の参加状況	地域連携・地域貢献は例年通り実施 ・市民大学：大人向け3講座、子供向け3講座、また、部活動単位で小中学生との交流事業をはじめ、福祉施設訪問等も行い地域とのつながりを深めた。 ・サイエンス教室は計2回実施。うち本校開催のサイエンス教室(参加者688人)にはSGH、外国語科の企画も実施し、地域の小中学生に成果を還元した。	B

学校関係者評価	実施日 令和2年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを用いた授業が多く、板書の時間が少ないため、質問などにあてる時間が多く有効である。 ・グループ活動が多く、友人への質問がしやすく理解がしやすい。 ・授業を見合う、授業方法の研修を定期的に行うなど、授業改善にさらに努めてほしい。 ・生徒研究発表会を参観し、発表が堂々としていて良かった。SSH・SGHでの取組及びFプランでの課題研究の指導による成果と考える。さらに続けてほしい。 ・不動岡の特徴の一つが外国語科を中心とした国際理解教育である。学科再編後もこの点をアピールできるように教育課程を検討してほしい。 ・これまでの進路指導の成果は着実に表れており継続してほしい。 ・変化する入試制度に生徒・保護者とも不安を抱えることも多いと考える。引き続き丁寧な情報提供に努めてほしい。 ・支援が必要な生徒もいるようであり、外部機関との連携も含め支援体制の充実を進めてほしい。 ・教員の働き方改革が叫ばれているが、「部活動の基本方針」のもとメリハリのある部活動を継続してほしい。 ・SNS利用については学校を問わず課題がある。セキュリティ面も含めて有効な指導、注意喚起を行ってほしい。 ・HPを利用した情報発信は有効であり、さらなる充実を努めてほしい。 ・市民大学やサイエンス教室は地元の小中学生に不動岡高校の魅力を伝えることで生徒募集にもつなげる意味合いがあった。さらに効果がある取組になってほしい。